

平成25年度 第1回 市民と市長の対話集会 市長と語ろう!ほっとミーティング

開催結果報告書

- 1 開催日時 平成25年(2013年)4月18日(木)
午後7時から午後9時まで
- 2 開催場所 城島公民館 集会室
- 3 テーマ 城島地区のまちづくり
- 4 出席者 参加者19名 傍聴者11名



城島公民館での集会の様子

5 市長あいさつ

皆様、こんばんは。夜分遅いところ、このほっとミーティングに御参加いただき、本当にありがとうございます。厚く御礼申し上げます。

市長に就任させていただいて3年目に入りましたが、就任前には大きな震災がありました。就任以降は市民の皆様の安心安全に関わる施策を中心に取り組んできました。平成23年度は市内4か所でほっとミーティングを開催させていただき、市民の皆様の防災対策に関わる御意見を伺いました。平成24年度からは、地域のまちづくりの御意見を伺うため、「あなたの地域のまちづくり」をテーマに開催させていただいています。平成23年度は4回、平成24年度は14回、これまでほっとミーティングは合計18回開催させていただきました。そして、平成25年度のスタートがこの城島地区です。御存知のとおり、私も隣の地区に住んでいます。交通をはじめ、私たちの住む平塚市の北部のまちは変換期を迎えています。今日は、城島地区のまちの有り様や方向性などについて、皆様と対話をさせていただき、施策に反映できることを考えていきたいと思えます。

私は市職員として働き、岡崎地区では公民館主事もさせていただきました。平塚市には27の地区自治会連合会があり、それぞれの地域が歴史や文化、人材などの豊富な資源を抱え、様々な活動を展開しています。私は地域がよりいっそう輝くことは、地域の集合体である平塚市の発展につながると信じています。

今日は、私がこの場でお答えできないこともあるかと思えます。その時には、業務を所管する部署に確認して回答をお返しさせていただきます。ぜひ、ざっくばらんな御意見をよろしく願いいたします。

6 主な対話集会の内容

① 市街化・農業について

【参加者】

城島地区において、人口の減少や少子高齢化は大きな課題です。市街化調整区域には、マンションやアパートを建てることができません。城島地区には若い世代の人が住む場所がありません。新しく住む場所がなければ、人口は増えることなく、少子高齢化は進むばかりです。城島地区は市街化を強く望んでいます。

【市長】

今、日本全国で人口は減り、平塚市の人口も26万人を下回りました。しかし、私は平塚市にはとても魅力があり、まだまだ成長するまちであると思っています。このまちを維持して発展させることも、私の課題です。

昭和45年、国の政策により、市街化を進める地域と農地などを守る地域の線引きを行いました。これまで、平塚市は5年から10年の間隔で線引きの見直しを6回行いましたが、ほとんど変化はありませんでした。つまり、昭和45年以降、まちの広がりが変わっていないこととなります。今、平塚市北部のまちづくりが求められています。ここで、大神地区と寒川町の倉見地区を橋でつなぎ、両方のまちを発展させるツインシティ構想が形になってきました。平成25年度中には都市計画をつくる予定です。このツインシティ構想により、大神地区の約70ヘクタールは市街化されます。

職員や市議会議員の頃も、城島地区の皆様からは、この地域の広く大きな土地を利用したまちづくりを考えてほしいと言われてきました。急に、市街化区域を広げることは難しいことです。しかし、まちの広がりのためには、土地を利用できる方法を考える必要があります。今、平塚市を取り巻く道路網が大きく変化しています。平成26年度中には、さがみ縦貫道路が全て開通します。平塚市の海岸から相模川を上り、東京都の八王子市にある高尾山の横を通って多摩地区から埼玉県や茨城県、栃木県に向かうことができます。さがみ縦貫道路の完成は、首都圏を通らない関東各地への物流を生むこととなります。さらに、新東名高速道路の建設も進んでいます。道路インフラの発展は周りの地域に大きく影響します。道路沿線には使用できる土地が発生し、まちの広がりを検討できます。城島地区には県道606号（大島明石線）、通称パイロット線があります。城島地区の発展のためには、このラインの強化が必要です。大島

の信号から伊勢原市の工業団地への都市計画道路も認定されています。城島地区のまちの広がりを考える場合、この道を早く開通させ、幹線道路の重要性を利用したまちの広がり考えることが現実的です。幹線道路の発展による利便性を生かした城島地区の発展を考えていきたいと思ひます。

【参加者】

孫が小学校1年生になりました。驚いたことに、1年生の児童数が約30名でした。この数年は1クラスの学年が続いているそうです。あと少し児童が増えれば、孫の学年も2クラスになるそうです。城島地区において、少子高齢化は大きな課題です。

【市長】

子どもは平塚市の宝です。将来、このまちを担ってもらふ子どものための施策はとても大切です。今、低学年からは35人学級になりました。御意見のとおり、児童が35人を超えれば、2クラスになります。クラス数が増えれば、先生の目が行き届き、子どもの学力にも良い影響が出ると思われます。学校に通う子どもを持つ若い御夫婦が、この城島地区に魅力を感じていただき、住んでいただけるような対策も考える必要があります。

【参加者】

城島地区は総合計画上、農業振興地域になっていると思ひます。しかし、ライスセンターを中心とする城島地区の農業には課題があります。後継者がいないこと、農家の高齢化によって耕作放棄地が増えていること、ライスセンター自体にスペースがなくて大型の機械を格納できないことなどです。

【市長】

農業との共生は本当に難しい課題です。TPP（環太平洋戦略的経済連携協定）により、安い農産物が輸入されるかもしれません。今、若い人が農業をしたいと思っただけのような魅力化が必要です。農業で稼げることを示していく必要があります。実際の取り組みとしては、若い農家による「ひらベジ」と名付けた平塚産農作物ブランドの売り出しもはじめています。この城島地区では、相模半白節成きゅうりも復活させていただきました。また、この城島地区には、農業従事者を支援する湘南ライスセンターも造っていただきました。御意見のとおり、センターでの受委託量が限界であることも伺っています。このことは、今後対策を考えていきたいと思ひます。農業の発展に特効薬はなかなかありません。今後、工業や商業との連携も含め、対策を進めていきます。

② 防災・安全について

【参加者】

防災対策において、市街地と我々のような郊外の地域では考え方が違ってよいかと思います。例えば、津波についても、この城島地区にはあまり心配がありません。城島地区には取り組むべき防災対策があります。具体的な取り組みでは、大島や小鍋島、下島の地域の避難所は城島小学校です。しかし、災害時に一時避難場所を経由して小学校に向かうと逆走することになる地域があります。そこで、我々は一時避難場所を増やし、無駄のない避難を可能にしました。また、特別養護老人ホームふじの郷と協定を結び、災害時には敷地内に避難させていただくことにしました。実は、夜間ふじの郷には職員が5人ほどしかいません。そこで、我々は敷地に避難してもらい、ふじの郷の利用者の支援に協力するという相互協力の協定を結びました。このように、地域ごとに必要な防災対策があります。このことは、行政も押し進めていただく必要があると思います。

【市長】

東日本大震災では津波の被害が甚大でした。平塚市も海に面しているため、津波から命を守っていただくための津波避難ビルを海岸線沿いに約70か所確保させていただきました。これからは、川を溯る津波に対する対策も考えます。情報面での対策も行い、今年は災害時のための備蓄を見直します。城島地区においては、耐震強化や液状化対策、一時避難場所、指定避難所などの取り組みが必要です。実際に取り組んでいただいたことを本当にありがたいと思います。今後も、地域に合った防災対策を進めていただくようお願いいたします。

また、市内の高齢者の方や障がいのある方に関わる福祉施設や支援学校とは協定を結ばせていただいています。要援護者の支援のために、市ではふじの郷と協定締結のために協議を進めています。

防災対策には、地域のつながりによる共助が大切です。城島地区は地域のつながりが強い地域ですが、市街地では隣にだれが住んでいるか分からないこともあります。実は、このほっとミーティングにおいて、マンションの独居高齢者の方が亡くなって数日後に発見されたというお話がありました。そこで、今年は高齢者の方の見守りの体制を充実させます。歩数計による安否確認やGPSによって居場所を確認する方法などを実施します。行政は公助における対策をしっかりと進めていきます。皆様においては、地域で地域を守るという共助のためのつながりづくりに御協力いただくようお願いいたします。

【参加者】

各自治会では補助を受けて防災倉庫を設置しています。しかし、防災倉庫まで距離があり、災害時に防災器具を取りに行けない地域もあります。我々はもっと細かい範囲での防災倉庫の設置を検討しましたが、防災倉庫の設置には様々な規制があります。農地などへの設置はできず、住宅地に設置するしかありません。災害時のために、防災倉庫はより細かい範囲で数多く設置することが必要です。

【市長】

市内各地域から、防災倉庫の設置場所や増設に関わる要望をいただいています。防災倉庫の設置に関する規制はありますが、地域の皆様の安全や使いやすさを考える時代です。設置場所や増設については、課題として捉えさせていただき、解決していきたいと考えます。

【参加者】

交通安全指導員や見守り隊の活動では、地域の子どもの登下校時の安全を守っています。岡崎小学校の前の道路ですが、横断歩道前の路側帯は1メートルありません。立っただけで怖い場所です。また、学校に近い歯科医院の近くの道路は傾いています。他にも、通学路には歩道が整備されていないところが多くあります。通学路の安全対策は重要です。

【市長】

地域の皆様による子どもの安全のための活動を本当にありがたく思います。以前、通学途中の子どもの列に自動車が突っ込むという事故がありました。当時、教育委員会や各小中学校では通学路の点検を行い、危険度の高い場所を確認しました。安全対策のために、予算をかけて対応するよう指示させていただきました。また、道路には段差が高く、高齢者の方や障がいのある方にとって危険な箇所もあります。道路の修繕などの安全対策は、できるところから行っていきたいと考えています。毎年、城島地区の地区自治会連合会からは、地域の要望をいただいています。安全対策に関する要望についても、地域のお声として、自治会連合会から届けていただければありがたく思います。

③ 医療・福祉について

【参加者】

最近、入院して回復するとすぐに退院させられます。独居生活の高齢者などには、退院後に一人で生活できない人もいます。病院には、施設や生活の支援を考えてくれるケアマネージャーのことを相談できる体制が必要です。

【市長】

現在の医療の仕組みでは、以前のように長く入院することはできません。重点的な治療を行い、回復された場合には退院していただく仕組みです。確かに、支援がある施設への入所や自宅生活への援助に関わる相談は必要です。例えば、平塚市民病院には地域医療・患者支援室があり、地域には高齢者よろず相談センターもあります。市役所の福祉の担当課にも、保健福祉総合相談の窓口がありますので、御利用くださるようお願いいたします。

【参加者】

障がいのある方が通う施設、精陽学園のボランティアをしています。しかし、ボランティアも高齢化して担い手がいません。町内福祉村に登録しているボランティアは多いですが、施設のボランティアは少なくて困っています。

【市長】

ひらつか元気応援ポイント事業というものがあります。登録していただき、施設などで活動していただくとポイントが貯まります。貯めたポイントは現金に換えることができるものです。高齢者の方に生きがいを持っていただき、体を動かすことで健康を維持していただくことを目的としています。この制度の対象になれば、精陽学園にも事業の情報を伝えさせていただきます。

私が岡崎公民館主事の頃、精陽学園とは一緒に事業をさせていただきました。地域の皆様が地域の施設を認識して関わっていただけることは大変重要で、そのきっかけづくりも行政の仕事だと思っています。

担当課回答（集会後、次のとおり担当課に確認しました。）

精陽学園の状況は、お問い合わせをいただいたように随時ボランティアを募集しており、その内容は洗濯物の片づけや利用者の遊び相手、勉強の指導などです。御希望の活動内容が町内福祉村でも対応できるため、所管部局から精陽学園に町内福祉村の御利用を案内しました。町内福祉村には地域福祉コーディネーターが配置されており、住民の方々からの相談に必要な援助が行われるよう、ボランティアとの調整を行っています。施設からの御要望にも、内容に応じてボランティアを派遣しています。

同時に、ひらつか元気応援ポイント事業の概要を精陽学園にお伝えしましたが、当事業は活動する方の介護予防と介護保険施設等を知っていただくことを目的としているため、現在は対象施設を介護保険施設等の37事業所としています。また、この事業の対象施設になると、事務作業が煩雑になるため、受け入れ態勢に関わる施設内での調整が必要になることから、事業への参加を施設内で検討していただくこととしました。本市では、対象施設の拡張の準備をしていますので、ボランティア派遣の必要性から精陽学園が事業の参加を希望される場合は、対象施設となるように検討していきます。

(事務担当は高齢福祉課高齢福祉担当)

【参加者】

平塚市では、60歳になるともらえる福寿手帳があると思います。しかし、福寿手帳の存在を知っている人は少なく、利用している人はあまりいません。そこで、60歳になった方に対して、行政から自動的に手帳を発行し、利用を促していただくと大変助かります。

担当課回答 (集会後、次のとおり担当課に確認しました。)

本市では市内にお住まいの60歳以上の高齢者に福寿手帳を交付していましたが、入浴サービス事業(市内の公衆浴場を指定時間に100円で利用できるサービス。平成25年3月29日をもって終了しました。)の廃止に伴い、福寿手帳の使用場所が福祉会館のみに限定されることとなったため、福寿手帳についても、平成24年度末で廃止しました。代わって、福祉会館では福祉会館を利用するための福寿カード(手続きは各福祉会館で行いますが、発行者は本市です。)を発行しています。福寿手帳は身分証明書の代わりとしての意義もありましたが、福寿カードも同じ役割を果たすため、福寿カードの御利用をお願いいたします。さらに、福寿手帳には高齢者福祉についての御理解を深めていただくための冊子としての意義もありましたが、本市で発行する高齢者のためのガイドブックの充実に努めていますので、市役所や公民館にてご覧いただきたいと思います。また、高齢化の進行に対応していくためには、それぞれの地域で住民同士が支え合う仕組みが必要になります。その一環として、本市では市域を8つの圏域に分けて各圏域に1か所ずつ「高齢者よろず相談センター(地域包括支援センター)」を設けています。高齢者よろず相談センターは市から業務を委託された機関であり、高齢者福祉に関する情報提供と地域の身近な相談役を担っていますので、ぜひ御活用くださるようお願いいたします。

(事務担当は高齢福祉課高齢福祉担当)

④ 施設について

【参加者】

公共施設の駐車場の有料化が話題になっています。総合公園の駐車場も有料になるのでしょうか。総合公園はお子様を連れて遊びに行く人が多い公園です。駐車場の有料化は、利用者の減少につながると思います。

【市長】

公共施設の管理や向上のために、利用者の方に御負担いただくことも必要と考え、駐車場の有料化を検討しています。総合公園や河川敷など、これまで無料で利用できた駐車場の有料化です。決して一律有料でなく、総合公園については、一定の無料時間を越えてから料金をいただく方法も考えています。使用料をいただくからには、施設の管理や整備などはしっかりと行っていきたいと考えます。

【参加者】

城島地区には子どもが安心して遊ぶ公園や高齢者が健康づくりのための運動をする公園がありません。そこで、公園を造ってほしいと思います。例えば、旧公民館跡地を利用して公園を造れば、子どもから高齢者まで、地域住民のふれあいの場になると思います。

【市長】

以前から、城島地区への公園の設置に関する要望は伺っています。御提案いただいた旧公民館には、文化財などを保管しています。法律上、文化財は小さな破片でも保管することになっています。実は、その文化財の保管場所が自治体の課題になっています。文化財を保管する代用地があれば、旧公民館跡地の利活用も検討できます。まずは、保管されている文化財の今後の保管方法を確認するとともに、改めて地域の皆様からの公園設置を希望するお声は担当に伝えさせていただきます。

担当課回答（集会后、次のとおり担当課に確認しました。）

市内には260か所を超える公園や緑地があるなか、公園の少ない地域への公園設置を考えていますが、用地や整備等の財源確保において、大変厳しい現状です。

今後とも適正な配置と公園整備に向け努めてまいりますので、御理解、御協力の程よろしく願いいたします。

（事務担当はみどり公園・水辺課公園整備担当）

現在、旧城島公民館内には、埋蔵文化財出土遺物約3,800箱と旧横浜ゴム平塚製造所記念館解体保存部材を保管しています。また、旧城島公民館以外に2か所の収蔵施設もあり、これらの文化財収蔵物は市民共有の貴重な財産として、将来一括して保管・活用することを検討していますが、現時点では具体化していません。

一括収蔵施設については、全庁的な余裕空間や既存施設の利活用を検討して対応を進めていますので、御要望にありました跡地の利用については、この施設が具体化した後に検討していくことになります。

(事務担当は社会教育課文化財保護担当)

【参加者】

子どもは下校後、もう一度学校に集まって遊んでいます。しかし、家が学校から遠い子どももいます。城島地区のように広い地域には、複数の遊び場があれば良いと思います。そこで、城島地区には農地が余っています。農地を整地して青少年広場にすれば、子どもに多くの遊ぶ場所を提供してあげられると思います。

【市長】

私が青少年課に所属していた頃、多い時期には、青少年広場が50か所以上ありました。青少年広場は、地主さんの好意で土地を使わせていただき、地域の子どもの遊び場となっています。使わせていただく代わりに、固定資産税の減免をさせていただいています。しかし、相続の時に問題が発生してしまいます。青少年広場は雑種地のような扱いになり、土地の評価に大きく影響します。所有者が代わる中で、青少年広場は減少して現在は17か所になりました。もし、所有者の方がこのようなことを了解していただいた上で、地域の子どものために青少年広場として使っても良いと言っただけなのであれば、大変ありがたいことです。

⑤ 環境について

【参加者】

10年以上前から、健康のためにウォーキングをしています。そこで気付いたことは、道路のアスファルトのわずかな隙間から、ヨモギやブタクサなどの雑草が生えていることです。雑草は歩行者の危険や道路の損傷の原因になります。私は可能な範囲で除草剤をまき、大変効果がありました。行政が全ての道路の除草作業を行うことは難しいと思います。そこで、私のような実際に地域の道路を利用する住民のボランティアを募り、除草剤などを提供して除草作業を任せてみてはいかがでしょうか。

【市長】

地域の皆様が利用する道路のための取り組みに感謝いたします。本来、市道の管理は行政が行うべきですが、管理しきれないことをお詫び申し上げます。ボランティアを募り、除草剤などを提供させていただいて除草作業に御協力いただくことの御提案は、担当課に伝えて考えさせていただきます。

担当課回答（集会后、次のとおり担当課に確認しました。）

道路行政に対する御理解、また御提案をいただき誠にありがとうございます。「行政がすべての道路の除草作業を行うことは難しい。地域でボランティアを募り、除草剤などを提供して除草作業を任せてみてはどうか。」とのことですが、車輛の通行が少ない河川沿いの道路などは地元自治会と契約を結び、除草作業（刈払機使用）を行っている地区もあります。しかし、除草剤については、効果のあるものは毒性の高いものが多いので、人体や環境に対する影響を考慮し、道路の除草作業においては使用していませんので御理解をお願いいたします。

（事務担当は道路管理課維持担当）

【参加者】

6月頃、道路の脇に放置された犬の糞からダニが湧きます。今、ダニが原因で死亡する病気が話題になっています。病気が起きる前に、ダニを湧かせない対策が必要です。

【市長】

環境のために、ポイ捨てなどを禁止する条例をつくりました。残念ながら、まだまだマナーが悪い人はいます。犬の散歩をして糞の始末ができない飼い主の方もいます。御意見のとおり、ダニを介在した死亡事故が起きています。環境面と衛生という視点からも、行政からは飼い主に対するマナーの呼びかけを行っていく必要があると考えます。

⑥ 歴史・スポーツについて

【参加者】

城島地区をはじめとする平塚市の歴史を語り継いでいくことが必要です。私は今、歴史を形として残したく、映像による作品をつくろうと考えています。

【市長】

郷土の歴史や記録は、市史としての文書などがあります。映像などで残していただけることは大変ありがたいことです。ぜひ、お願いしたいことですので、よろしくお願いいたします。

【参加者】

市内駅伝を盛り上げたいと思い、我々小鍋島自治会は10年くらい前から成績速報を行っています。中継所やゴールには、選手や付添、応援の人が多くいます。チームごとの順位やタイムが分かり、成績速報は好評を得ています。しかし、課題があります。総合公園を走る女子区間のデータが分かりません。スポーツ課では女子区のタイムなどのデータを把握していると思うので、成績速報のため、データの提供をお願いいたします。

【市長】

情報を早く提供することにおいては、物理的な課題もあるかと思います。ツイッターなどの方法で、情報を早く発信する手段も考えられます。担当にはお話を伝えさせていただき、可能な範囲での情報提供を考えさせていただきます。

スポーツが盛んなまち元気なまちです。この城島地区のスポーツが盛んなことは、地域の皆様の熱心な取り組みのおかげです。引き続き、城島地区や平塚市の活性のために、御尽力をお願いいたします。

担当課回答（集会後、次のとおり担当課に確認しました。）

日頃、本市スポーツ行政に御理解、御協力いただきありがとうございます。

市内駅伝における女子区の成績については、主管団体である平塚市陸上競技協会とも相談の上、中継所等への公表や提供について、検討していきたいと考えています。

なお、協会の審判員は少ない人数の中での運営のため、中継所への情報提供等については、地区自治会等に御協力を仰ぐことも考えられますので、御承知おき願います。

（事務担当はスポーツ課スポーツ担当）

7 市長によるまとめ

今日は城島地区の皆様の率直な御意見をいただき、ありがとうございました。城島地区のまちの広がりや農業、安心安全に関わることなどの貴重なお話を聞かせていただきました。地域で生活する皆様の御意見や思い、取り組みは、これからも城島地区を輝かせるはずです。これからも城島地区や平塚市を愛していただき、地域の活動への御協力をお願いいたします。行政も精いっぱい取り組みを進めていきます。

これからも、このような機会を設け、市民の皆様の御意見が市政に反映されるように努力していきます。今日は本当にありがとうございました。

アンケート結果報告

【回答数 25件（参加者 18件 傍聴者 7件）】

参加者・傍聴者について

年齢

20代	30代	40代	50代	60代	70歳以上	不明
0名	0名	3名	0名	12名	10名	0名

性別

男性	14名
女性	8名
回答なし	3名

質問1 今回の「ほっとミーティング」の開催はどこでお知りになりましたか。

回答

	参加者	傍聴者	計
広報ひらつか	5名	1名	6名
ポスターやチラシ	0名	3名	3名
町内会など地域から	10名	3名	13名
市ホームページ	0名	0名	0名
その他	2名	0名	2名
回答なし	1名	0名	1名

質問2 市長との対話はいかがでしたか。

回答

	参加者	傍聴者	計
よかった	9名	5名	14名
まあよかった	9名	1名	10名
どちらともいえない	0名	0名	0名
あまりよくなかった	0名	1名	1名
よくなかった	0名	0名	0名
回答なし	0名	0名	0名

質問3 質問2であまりよくなかった、よくなかったと答えた方について、市長との対話でよくなかった点はどのような点ですか。

回答 ・話がかたよっていた。

質問4 御自身の考えや思いは伝わりましたか。(参加者対象)

回答

伝わった	8名
まあ伝わった	5名
どちらともいえない	1名
あまり伝わらなかった	3名
伝わらなかった	0名
回答なし	1名

質問5 質問4であまり伝わらなかった、伝わらなかったと答えた方について、御自身の考えや思いについて、伝わらなかった点はどのような点ですか。(参加者対象)

回答 ・城島地区の市街化について。
・農業について。

質問6 対話集会について、御感想や運営への御提案はありますか。

回答 ・市長と直接話す機会は、できるだけ増やしてほしい。
・市長の説明が詳しく、参加して良かったです。
・若い世代の人にも参加してほしい。
・土日開催すれば、若い人も参加できると思う。
・時間が短かった。
・テーマの範囲が広すぎる気がする。
・地域の方が色々なことを考えていることが分かりました。
・参加した女性の発言が少なく、残念でした。
・このような集会をもっと増やしてほしい。